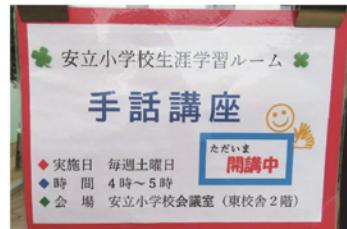


レポート&インタビュー

住之江区の安立小学校生涯学習ルーム「手話講座」へいってきました！

今回おうかがいしたのは、住之江区にあります安立小学校生涯学習ルーム「手話講座」です。この手話講座は、安立小学校東校舎2階の会議室で、毎週土曜日の午後4時から5時まで開講されています。



生涯学習推進員の松井芳春さんをはじめ、手話講座代表の前和彦さん、講師の竹山宏之さんと岩井千草さんにいろいろなお話をうかがいました。

「手話講座」は こんなところ

まずは、生涯学習推進員の松井さんに、手話講座の立ち上げのときのお話を聞きします。

—手話講座はどのようにして誕生したのでしょうか？

平成7年の話になりますが、私が安立小学校のPTA会長を務めていたときに、生涯学習ルームを立ち上げなければいけないということになり、当時の教頭先生と「さあどうしようか…」と頭を悩ませていました。



小学生の頃から付き合いのあった竹山さんに声を掛けて、

平成7年9月からこの手話講座をスタートさせました。竹山さんが手話を教えていたことは知っていたので、講師をしてほしいとお願いして、引き受けられました。それから現在までずっと手話講座は続いています。

ーどのような方が 学んでおられるのですか？

一時期、多い時で受講生が20人を超えたこともありましたが、今は全員で15~6人と、ちょうどいい人数です。受講している人はみんな長く続けてくれています。地域の人人がほとんどで、住吉区や堺から来ている人もいますが、堺といつても大和川を挟んですぐですからね。

手話を始めようと思ったきっかけはみんなバラバラで、最近だとドラマ（2022年に放映されたテレビドラマ「silent」）の影響もあるみたいですね。

私たちの頃は、手話のドラマといえば酒井法子さんの「星の金貨」でしたけどね（笑）。

「手話講座」の教室風景

今回、私たち取材チームも手話講座を体験させていただきました。



会議室内には、テーブルが楕円状に並んでいます。みんなの顔が見えるように囲んで座ります。この日は16人で学びました。

まずは、日常生活でよく使う単語がたくさん書かれている手

作りのテキストを使って、指文字と手話で表現する方法を学びました。指文字とは、「あ」から「ん」までの50音を、1文字ずつ指で表現する方法です。これを見れば、手話がわからなくとも言葉を伝えることができます。指文字を教わったあとは、その言葉をあらわす手話を教わりました。講師の竹山さんと岩井さんが2人で丁寧に教えてくれます。このとき、なぜその言葉がこの手の形・手の動きなのか、由来やなりたちも教えてくれるので、スッと頭に入ってきて、記憶が定着しやすくなります。

この日は、「電気」、「家族」、「父」、「母」、「写真」など、14の単語の手話表現を覚えて、手話講座の前半が終りました。

後半は、手話コーラスの練習をしました。11月に行われる安立小学校同窓会の総会で、「生涯学習ルーム開設30周年記念発表会」を開催します。

手話講座のみなさんはそこで手話コーラスを発表することになり、それに向けての練習です。「いのちの理由」と「翼をください」の2曲を披露することになっていて、これから11月の本番までの間に、1時間という短い講座時間の中で、ふだんの手話の学習と並行して手話コーラスの練習もしています。おだやかな講座の雰囲気の中にも、みなさんの真剣さが伝わってきます。

二人の講師の パートナーシップ

講師を務めているのは、竹山さんと岩井さんです。お二人がいつも一緒に教えています。

竹山さんは、もともと楽器の

製作の仕事をされていて、手話を教えるようになって43年くらい経つそうです。30年前に松井さんからお声がかかり安立小学校生涯学習ルームで講師をされるようになりました。岩井さんは、別の手話の団体で親交のあった岩井さんの夫を通じて知り合い、聴覚に障がいがある岩井さんとペアを組んで、長い間お二人で講師をされています。竹山さんは、「岩井さんとだからこそ、講師として一緒に手話を教えたい」と強くおっしゃっていました。これまでに築き上げられた絶妙なパートナーシップが、和気あいあいとした講座の空気感を創り出しています。



岩さんは、講師の竹山さんと知り合って以来、約25年にわたって手話講座に携わっています。当時の岩さんは、お子さんも大きくなって一緒に遊ぶ必要もなくなり、休みの日は何をしようかな？、地域での知り合いを増やしたいなと思っていたところでした。そこから今までずっと続けています。その間、自分で手話の入門講座に通って勉強もしました。岩さんは、「最近、この歳になって理解力が増したな、と感じてるんですよ」と笑って話していました。

「手話講座」を支える 生涯学習ルーム運営委員

長年、手話講座のお世話をしてくれているのが、安立小学校生涯学習ルーム運営委員で、手話講座の代表でもある前さん

です。

前さんいわく、「代表？私は何もしてないですよ」と謙遜されますが、教室使用に関すること、受講生の出欠管理、お金の管理、学校との調整など、手話講座の運営全般を担っています。



前さんは、講師の竹山さんと知り合って以来、約25年にわたって手話講座に携わっています。当時の前さんは、お子さんも大きくなって一緒に遊ぶ必要もなくなり、休みの日は何をしようかな？、地域での知り合いを増やしたいなと思っていたところでした。そこから今までずっと続けています。その間、自分で手話の入門講座に通って勉強もしました。前さんは、「最近、この歳になって理解力が増したな、と感じてるんですよ」と笑って話していました。

「手話講座」のこれから

—これまでを振り返って、またこれから先の手話講座について、皆様方どのように感じているのでしょうか？

今は適正な人数でやっていますが、これまででは受講生が増えたり減ったりしてきました。今いる人は長く続けています。新しく仲間入りしてくれた人もいて、高校生2人が来てくれるようになりました。将来の目標のために手話ができる方がいいと思って、住之江区役所に問い合わせてここに来てくれるようになったんですが、「ここ

に来るのが楽しい」と言ってくれています。若い人はとにかく手話を覚えるのが早いです。

これからの手話講座の課題といえば…これはどこの地域団体でも同じような悩みを持っていると思うのですが、私たちもみんな70代になって、いずれは抜けていきます。世代替わりの頃が問題なのかなと感じています。今はたまたま若い人が2人入ってきていますが、一番の悩みは、やはり若い人が来ないということですね。

取材を終えて

私たち取材チームも、まるで以前から一緒に受講していたかのように自然に受け入れてくださいました。講座の時間が終わってからも、受講生のみなさんも一緒に残ってくださって、いろいろな発言をしてくれました。

手話講座は間もなく30周年を迎えます。同じ運営陣で30年も続けていくのは大変なことです。講師の竹山さんは「松井さんがいたのが大きい」と言い、講師代表の前さんは「松井さんの人柄。それで続いている」と言います。生涯学習推進員の松井さん、講師代表の前さん、講師の竹山さんと岩井さん、この4人の関係性から創り出される手話講座の和気あいあいとした雰囲気があって、30年、さらにその先へも続していくのだと感じました。ほんの数時間だけお邪魔した私たちでも、「これなら毎週通いたくなるな」と思いました。

今みなさんが練習している、11月開催の安立小学校同窓会総会で発表する手話コーラス。私たち取材チームもぜひ観に行かせていただきたいと思っています。

